

Ⅱ－１ 稲沢市の現状と2027年の展望

ここでは本市の現状を整理し、本プランの計画期間である2027年を展望します。

稲沢市で今後、加速化する人口減少

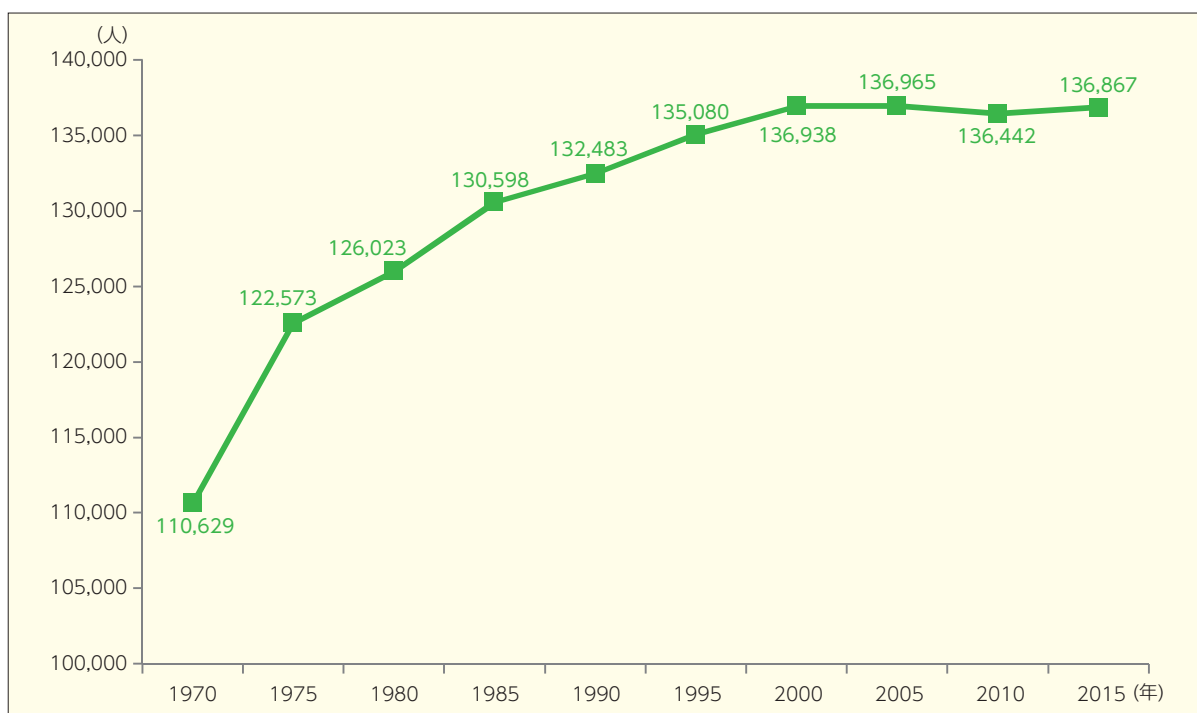
本市の国勢調査人口は、高度経済成長期以降、増加していましたが、2005（平成17）年から2010（平成22）年にかけて、初めて減少に転じました。

今後、少子高齢化が進み、死亡が出生を上回ることから人口は急速に減少し、2027年には12万4千人余りになると見込まれています。この状況で推移していきまると、2015（平成27）年からの12年間で約1万2千人、現在の1割近い人口が減少することになります。2015（平成27）年国勢調査結果によりますと、本市の人口は136,867人であり2005（平成17）年並みに回復していますが、これはJR稲沢駅周辺開発に伴う一時的な社会増によるものであり、将来の人口減少の傾向が変わるものではありません。

また、『稲沢市人口ビジョン』において、合計特殊出生率*や純移動率*の改善を前提とした将来人口を展望しましたが、そのシミュレーション結果からも、人口減少は回避しようのない問題であることが分かります。

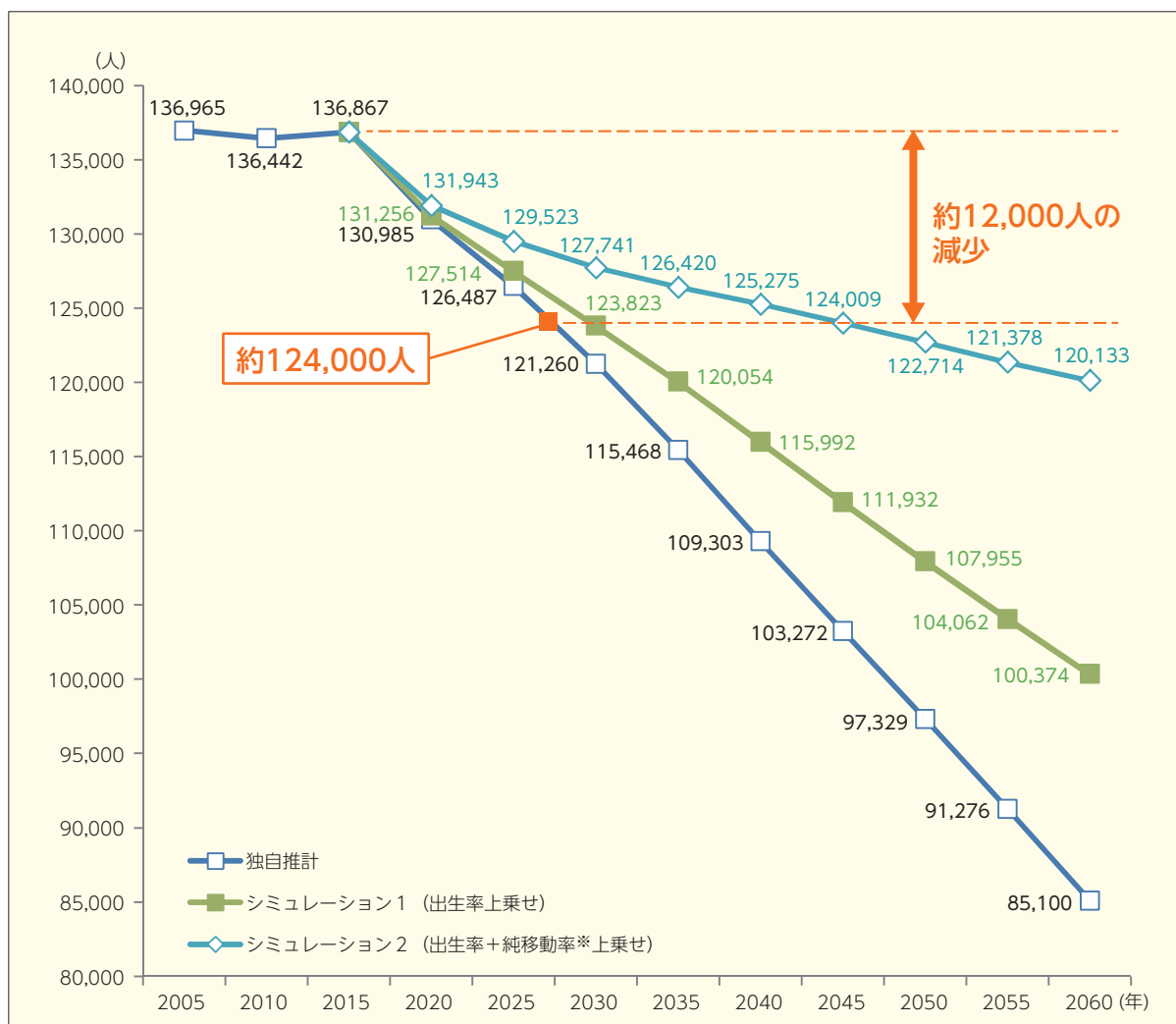
人口が大きく減少すれば、市の税収が急速に減少するとともに、経済活動の担い手である若者の減少による地域活力の低下や活気の喪失が懸念されます。この将来人口展望を踏まえ、あらゆる手段で人口減少に歯止めをかけるとともに、人口減少社会に現実的に対応できる社会システムを構築していく必要があります。

稲沢市の人口動態



出典：国勢調査（総務省統計局）

稲沢市の人口見通し



出典：2015（平成27）年までは国勢調査（総務省統計局）、2020年以降は本市による独自推計結果

人口増加が進む名古屋市の周辺都市

少子高齢化により、日本の人口は2008（平成20）年の約1億2,808万人をピークに減少に転じました。一方、名古屋駅周辺の再開発進展に伴う就労人口の増加により、名古屋駅から鉄道アクセスの利便性の高い駅周辺では、住宅ニーズが飛躍的に拡大し、その結果、定住人口の増加が顕著に表れています。特に、名古屋駅から鉄道アクセス10分台の圏域にある他の7都市では、平均で5.0%と急速な増加傾向が表れています。

しかしながら、これらの7都市と同様な位置にある本市では、この期間中にJ R 稲沢駅周辺開発がなされたにも関わらず、人口はわずかながら減少しています。

名古屋駅から鉄道アクセス10分台の都市の人口動態

都市名	主な駅	主な路線	人口（人）		人口増減（%）
			2005年	2015年	
稲沢市	稲沢、国府宮	J R 東海道線、名鉄本線	136,965	136,867	99.9
一宮市	尾張一宮、名鉄一宮	J R 東海道線、名鉄本線	371,687	380,868	102.5
春日井市	勝川	J R 中央線	295,802	306,508	103.6
東海市	太田川	名鉄常滑線	104,339	111,944	107.3
大府市	大府	J R 東海道線	80,262	89,157	111.1
豊明市	前後	名鉄本線	68,285	69,127	101.2
北名古屋市	西春	名鉄犬山線	78,078	84,133	107.8
弥富市	近鉄弥富	近鉄名古屋線	42,575	43,269	101.6
7都市平均					105.0

参考)

愛西市	勝幡	名鉄津島線	65,556	63,088	96.2
清須市	須ヶ口	名鉄本線	63,358	67,327	106.3
あま市	甚目寺	名鉄津島線	85,307	86,898	101.9

出典：国勢調査（総務省統計局）、対象都市については本市で選定

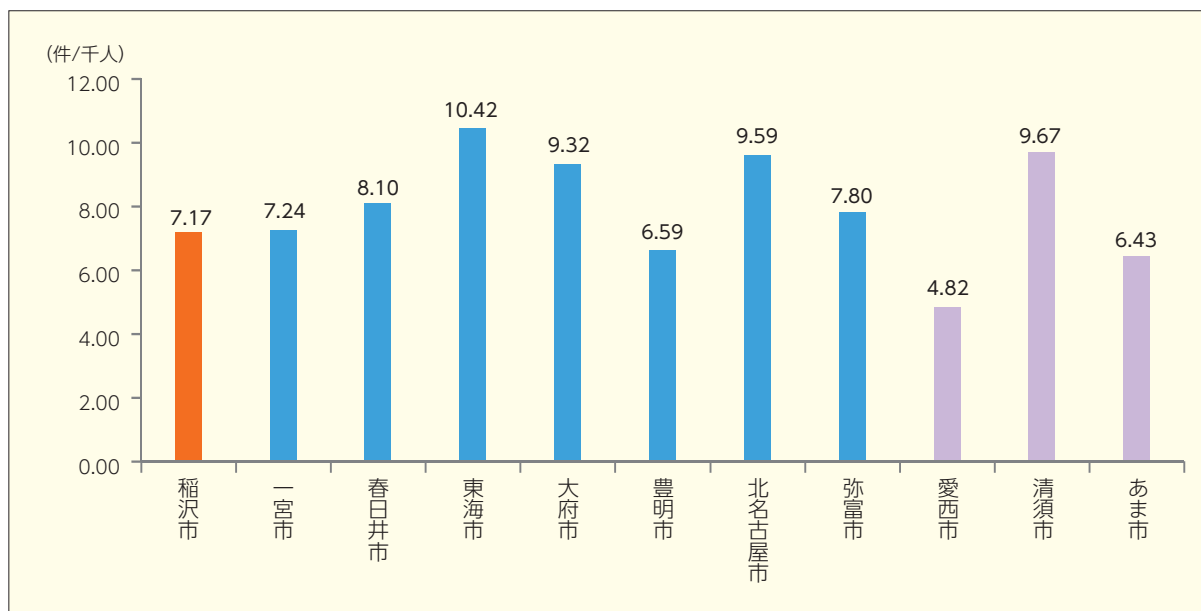
住宅の建設が進んでいない現状

本市は、市域の約9割が市街化調整区域*であり、住宅を自由に建設できない土地がほとんどを占めるという実状にあります。そのため、人口千人当たりの新設住宅着工件数も、前述の名古屋駅から鉄道アクセス10分台の7都市と比較して下位にあります。

しかし、住宅の建設が進まないのは、市街化調整区域の割合が高いことだけが理由とは言い切れません。前述の7都市の主要駅周辺では、この10年で複合ビルなどの再開発や周辺地区でのマンション建設が進んだところが多く見られますが、本市では、JR稲沢駅周辺開発を進めたものの、名鉄国府宮駅周辺及び開発を進めたJR稲沢駅周辺には、いまだに低未利用地が数多く残っており、他都市とはやや違う傾向にあります。

本市の人口に対する転入者の割合は県内で低位となっており、名古屋市への通勤者が多い一方で、ベッドタウンとして転入者を受け入れきれていない実態がうかがえます。名古屋市の他の周辺都市と比べて、本市は居住する都市としての選択肢になっていないと推測されますが、住宅供給量が少ないことが、その一因であると考えられます。

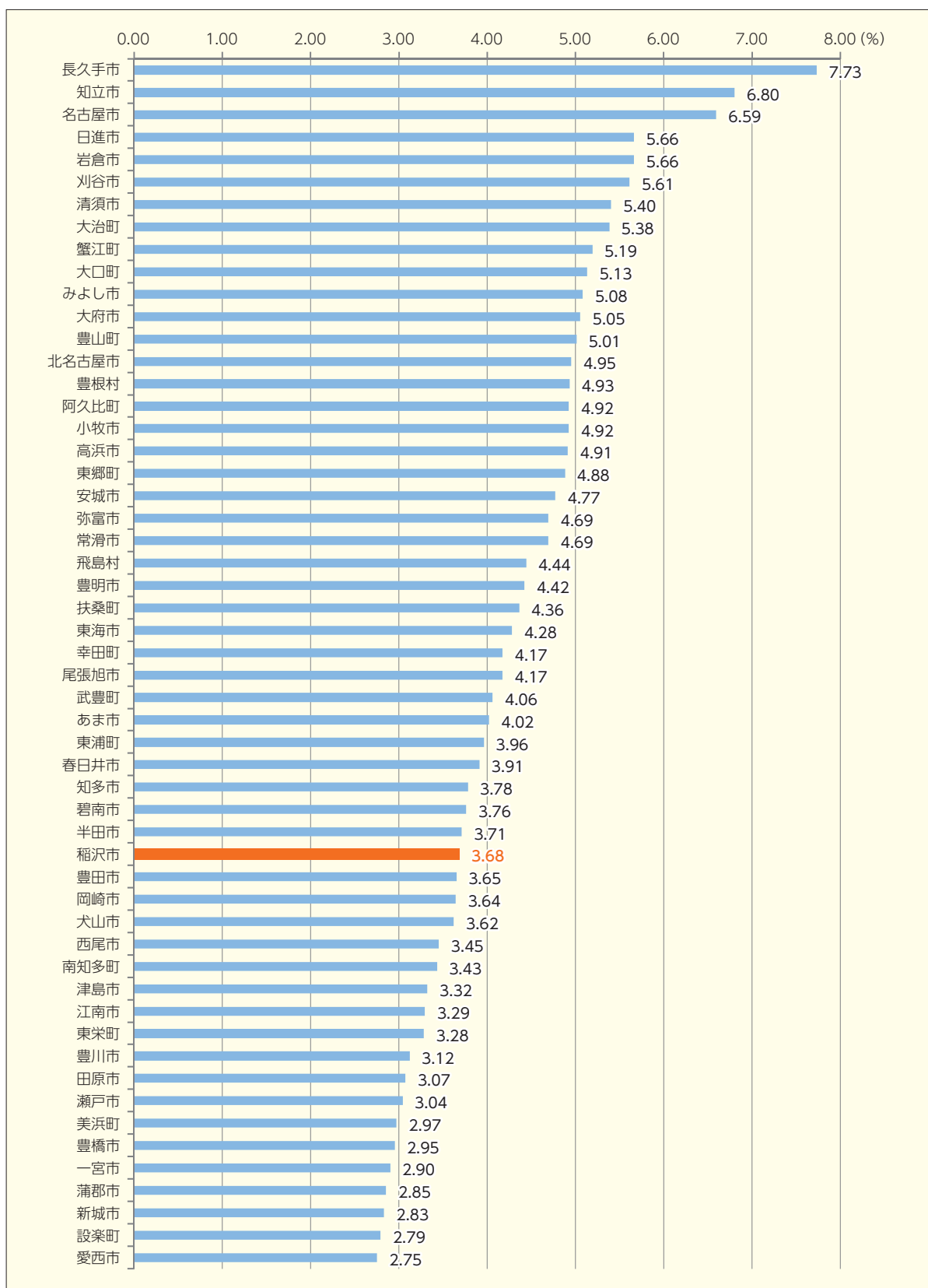
名古屋駅から鉄道アクセス10分台の都市の人口千人あたり新設住宅着工件数
(2006(平成18)年～2015(平成27)年の10年間平均)



出典：住宅着工統計調査（国土交通省）、対象都市については本市で選定
データは市のみ公表されているため、あま市については市町村合併して市制施行した2010（平成22）年以降の6年間の平均値



人口に占める過去1か年の転入人口の割合（2014（平成26）年10月）



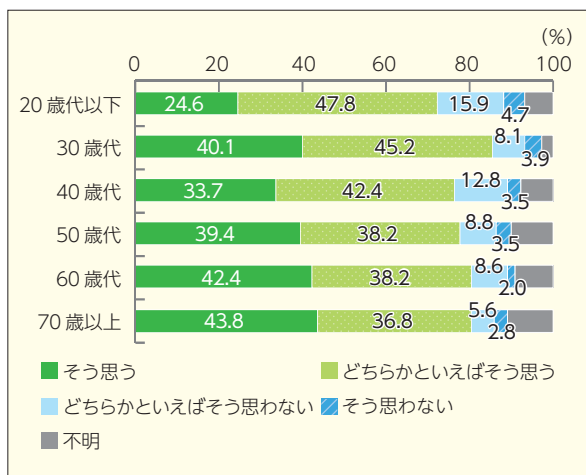
出典：2014（平成26）年 愛知県人口動向調査結果年報（あいちの人口（推計））

定住を希望する人も市外に転出している可能性

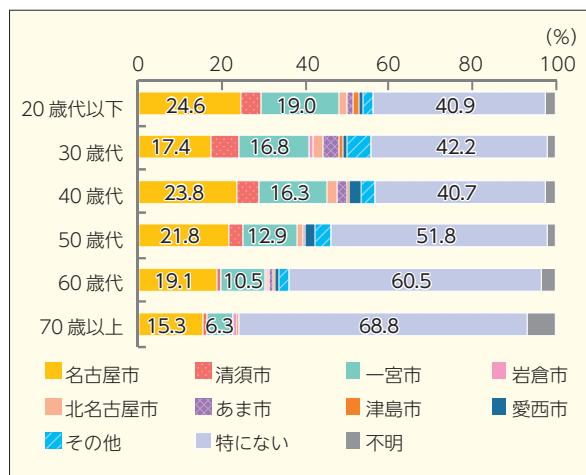
市民を対象としたアンケート調査において、30歳代以下の約8割が「今後も稲沢市に住み続けたい」と回答し、稲沢市より住みやすそうと思う近隣の都市については4割以上が「特にない」と回答しています。また、将来の住まいとして、現在の住まいの周辺はもちろん、名鉄国府宮駅周辺やJR稲沢駅周辺を希望する割合も高くなっています。

本市では、2010（平成22）年において、隣接する6市から本市への通勤者が一定数見られる一方で、2005（平成17）年から2010（平成22）年の5年間において、一宮市と愛西市へは転出者数が転入者数を上回る傾向があります。このことは、住宅の供給不足などにより市内で住宅が確保できないために両市に転出しているものと推測され、本来、定住したい人が市外に流出している実態がうかがえます。

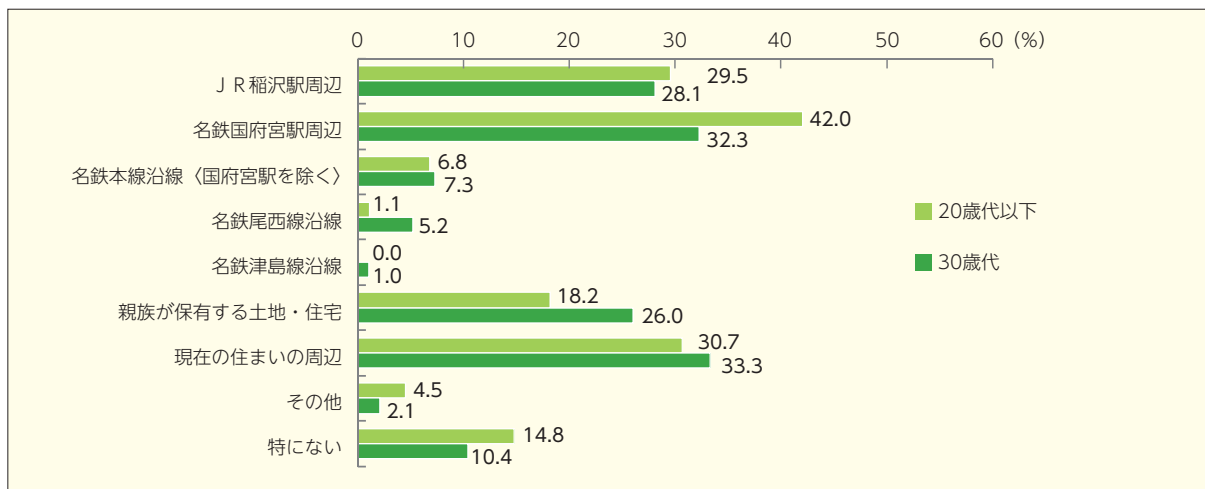
問 今後も稲沢市に住み続けたいか



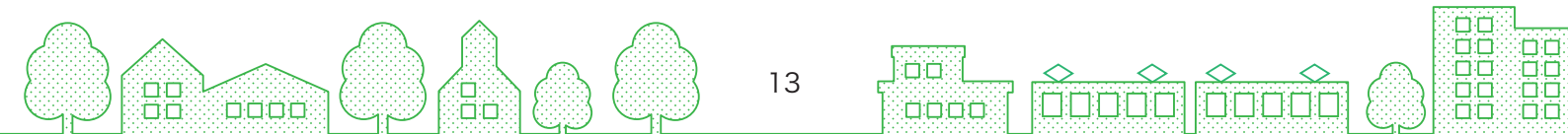
問 稲沢市より住みやすそうと思う近隣の都市



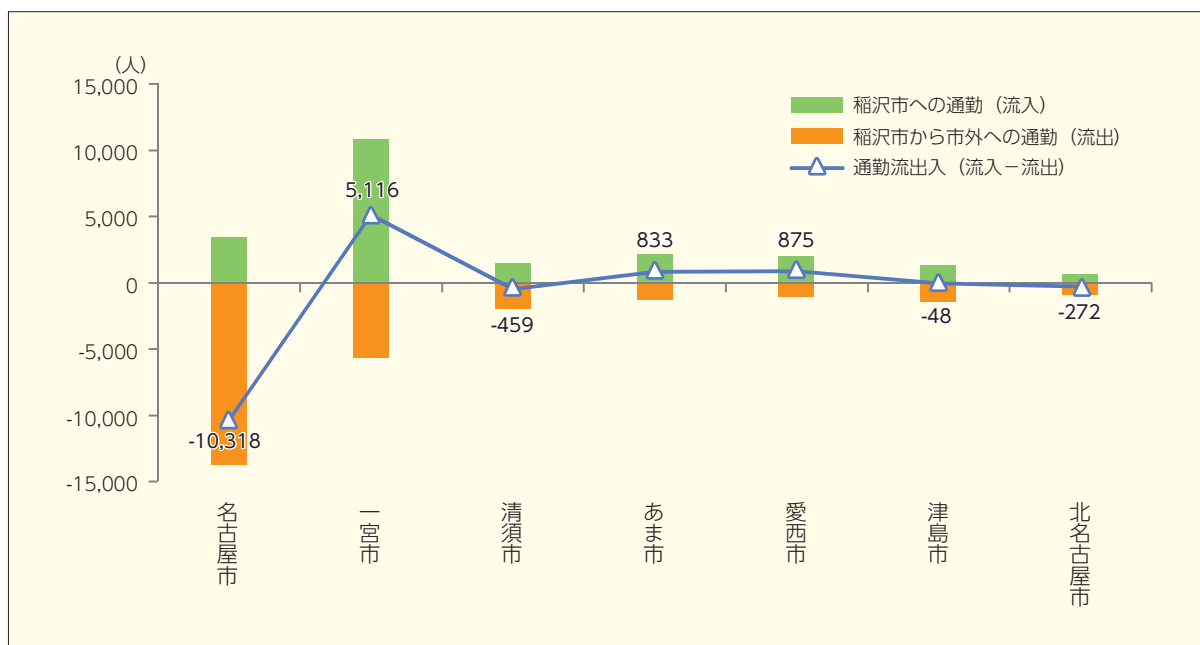
問 稲沢市内で住みたいところ



出典：将来のまちづくりに関するアンケート調査、結婚・出産・子育てに関するアンケート調査
 (2015（平成27）年8月：稲沢市)

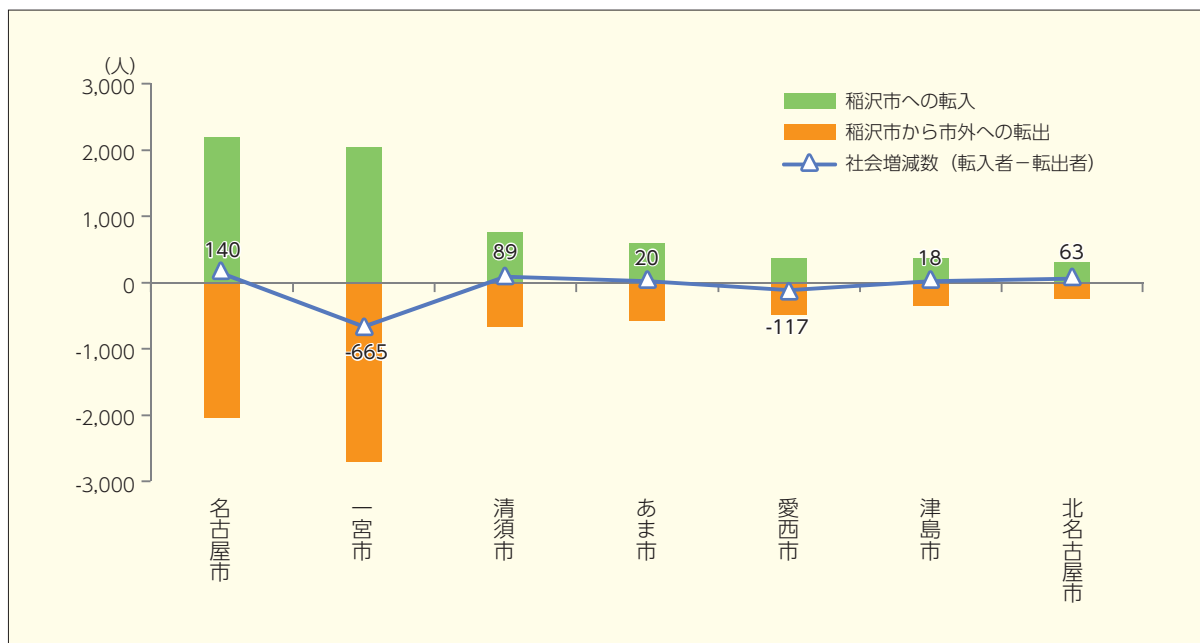


本市における通勤の流出入（市町村別）



出典：2010（平成22）年国勢調査（総務省統計局）

本市と近隣市町村における社会増減

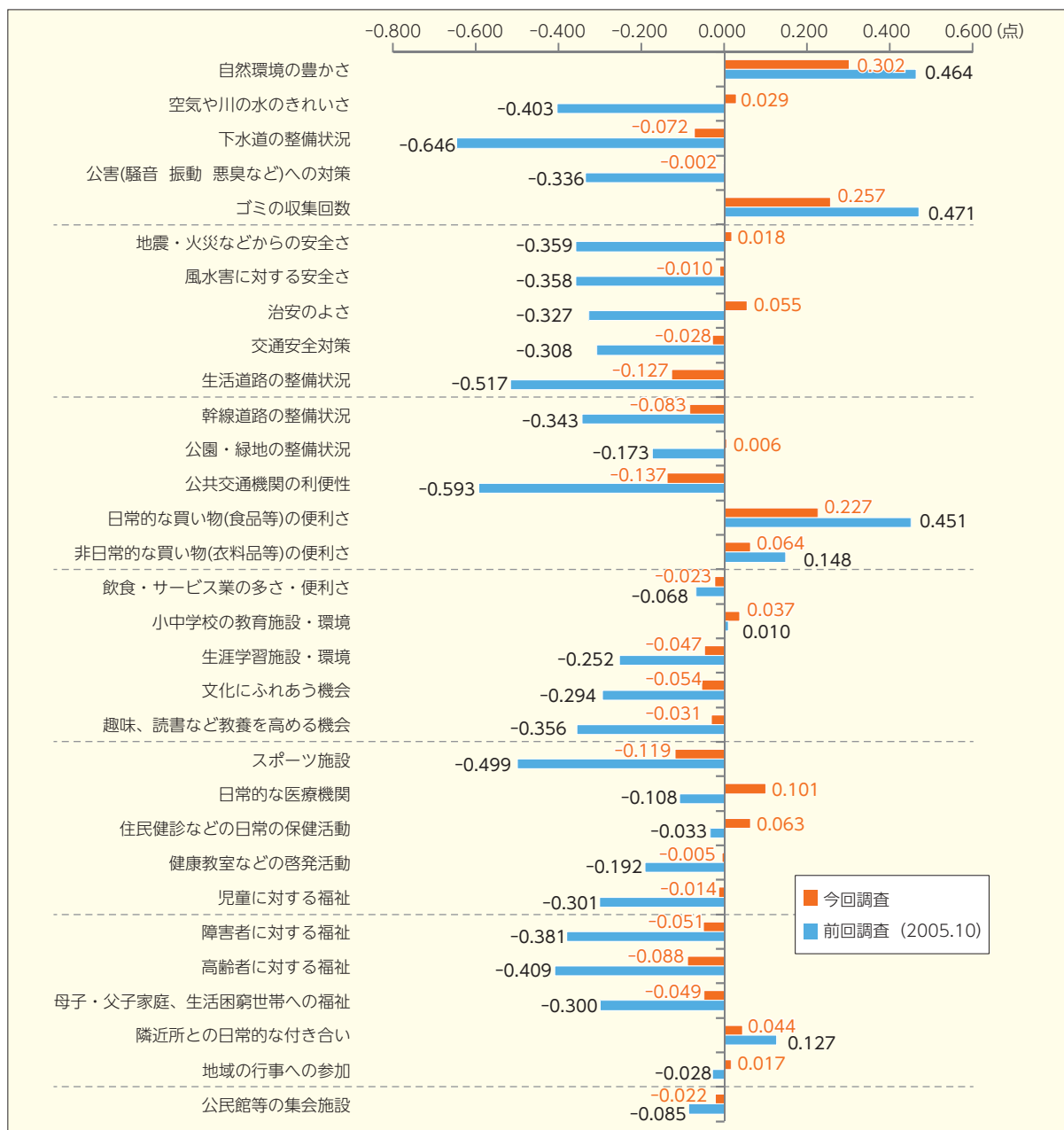


出典：2010（平成22）年国勢調査（総務省統計局）

まちづくりに対する市民の評価は大きく改善

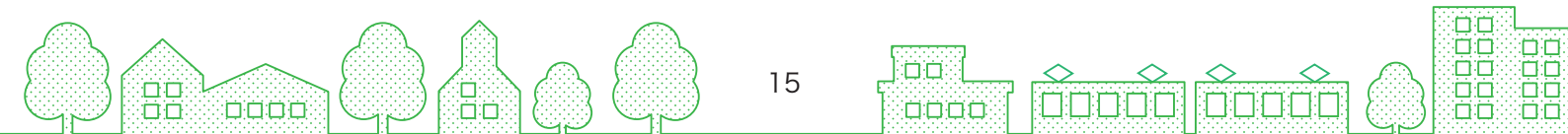
市民アンケート調査による生活環境の満足度は、5次総計を策定した2007（平成19）年度と比べて概ね改善しているため、選択可能な住宅が供給されれば、現在の転出傾向に歯止めがかかる可能性があると考えられます。しかしながら、満足よりも不満の割合が高い項目も少なくないため、生活環境を改善する活動を継続して実施していくことが不可欠です。

住んでいる地域の生活環境に対する満足度（5段階評価をもとに得点化）の比較



※「満足」を1点、「まあ満足」を0.5点、「やや不満」を-0.5点、「不満」を-1.0点として得点化。得点がプラスであれば満足が不満を上回り、マイナスであれば下回っていると見ることができる。

出典：将来のまちづくりに関するアンケート調査（2015（平成27）年8月：稲沢市）



リニア中央新幹線開業は大きなチャンス

2027年には、名古屋と東京・品川間を約40分で結ぶリニア中央新幹線が開業します。現在、名古屋駅周辺で進められている高層ビル建設も、リニアインパクトを見据えたものと考えられます。今後、名古屋圏では名古屋駅周辺におけるビジネスやショッピング、観光などの拠点性が一層高まっていくものと予想されます。

そのため、名古屋駅から鉄道アクセス利便性の高い駅周辺において、住宅の需要がこれまで以上に高まる可能性があります。名古屋駅から鉄道アクセス10分台の都市の中で開発が遅れている本市は、逆に発展余地の残る唯一の都市であるということができ、これをチャンスに変えていく必要があります。

リニア中央新幹線が開業する2027年度までを計画期間とした本プランは、リニアインパクトに向けて、本市にとって最も良い発展の方向性を示し、その実現に向けた取組みも示す必要があります。